

補題 0.1. 環 A を integrally closed domain とし, G をその自己準同型写像が成すある有限群とする. この時, 固定環 $A^G (\subseteq A)$ は integrally closed domain である.

(証明). $\text{Quot}(A^G)$ の元 f/g を任意にとる. 以下の式を満たす $\{a_i\}_i \subset A^G$ が存在したとしよう.

$$\left(\frac{f}{g}\right)^n + a_1 \left(\frac{f}{g}\right)^{n-1} + \cdots + a_n = 0$$

$A^G \subseteq A, \text{Quot}(A^G) \subseteq \text{Quot}(A)$ だから, $f/g \in \text{Quot}(A), \{a_i\}_i \subset A$ とみなすことができる. A が integrally closed domain であることから $f/g \in A$. まとめて $f/g \in \text{Quot}(A^G) \cap A$ が得られる.

さて, $f/g = h$ と置くと $h \in A$ かつ $gh = f$. $f/g \in \text{Quot}(A^G)$ だから f, g はどちらも A^G の元である. なので,

$$\forall \sigma \in G, \quad g \cdot h = \sigma(f) = f = g \cdot \sigma(h) \iff \forall \sigma \in G, \quad h = \sigma(h)$$

よって $h = f/g \in A^G$ が得られた. ■